

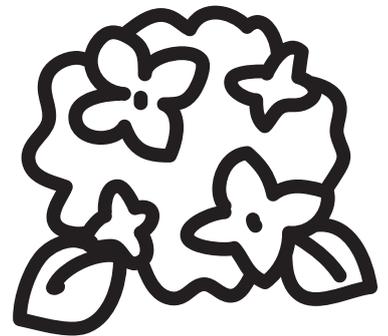
 いわみざわ公園バロ園 www.iwamizawa-park.com

「カッコウが鳴いたら豆まきをしなさい」

この言い伝えは、私の知り得ている範囲では150年以上前から我が家に伝わる言葉で未だに守っています。調べてみると暖かい地域では「ホトトギス」も同じように言われているようです。一説に「ホトトギス」と「農事」に関連する言葉が古くは「古今和歌集」にあり、これを受けて季節を告げる鳥、農作業時期を教える鳥とされていたとか…真意かどうかは定かではありませんが、大昔から言い伝えられていた様です。カッコウは渡り鳥で決まって春から初夏にかけて飛来します。今では、カッコウと同様に季節を表す鳥とされているようです。いつ頃から「カッコウが鳴くと豆まき」の季節と言われていたかは定かでは有りませんが、150年以上前と言うことはハッキリしています。千曲市「食ごよみ」に、この時期はカッコウも鳩も子育てに専念するため、蒔いた大豆をほじられることが少ないなどと言い、昔から「カッコウの鳴き声が聞こえたら大豆を蒔く時期がきた」と記されています。また、「日本豆類外史余録帳」には、ヨタカが鳴けば手苗を捨てて豆を蒔け、山鳩が鳴いたら豆を蒔けと記されています。いずれにしてもカッコウはカッコウ目カッコウ科の渡り鳥。ユーラシア大陸にすみ、冬は南アジア、アフリカへ。日本には夏鳥として飛来することから暖かさの象徴として農作業の開始とみなす農業者の昔からの知恵だったのですね。自然から学ぶ貴重な現象、色々役に立つことが有りそうです。(ながやす)

園芸相談を寄せる様々な人の生き様

雪もすっかりなくなり暖かになったゴールデンウィークあたりから園芸相談数はぐっと増えてきます。やれこの肥料はバラにどうなのかとか、この植物は今植え替えていいのかなど、今まさに作業中の皆さんがピンポイントな質問をしてくれます。肥料、農業関係のことでは「説明書には何倍って書いてありますか？」書いてあることが基本ですとお伝えしますが、人の生き方は人それぞれ。先日私が受けた電話相談の方は、分量を測るのも小さな文字の説明書も読みたくない人でした。どうも料理を作る時に調味料を適当に入れるタイプの人です。入れた方がいいであろう肥料をまるで関取が塩を撒くがごとく、花咲か爺さんが灰を撒くがごとく勢いよく適当に蒔いてしまうような口ぶりです。その方にはもし肥料が多すぎた時に起こる肥料やけの状態や、そうなった時の対処の仕方を伝え、農業は害を伝えなるべく使わない方向に話しました。適当でも育てたい気持ちで植物を継続して見守ることができればなんとかなるようになります。人はそれぞれ。失敗を繰り返しながらも適当に乗り切っている達人だっているのだと思います。とにかく植物は面白いので気になる植物と自分なりに触れ合うことから始めてみましょう。(きのした)



今月の便り

マイツルソウ

マイツルソウはユリ科の10センチから25センチほどの多年草で低地から亜高山の林床や草地にしばしば群生する山野草です。春、5月～7月頃に1本に20個ほどのつぶつぶの白い花を咲かせます。葉はハート形で、舞鶴草の名前は葉っぱの形を鶴が羽を広げた様子にたとえたものと言われます。花が終わると5ミリほどの実をつけますが実の色付き方が珍しく、はじめ緑の実に赤いまだら模様ができつやつやの真っ赤に熟していきます。(いとう)

新緑がますます映えるとき

広葉樹はすでにたくさんの葉を展開し、イチイやマツ、ヒバなど針葉樹も芯が伸び始めてきます。そのみずみずしい新緑をめがけて樹液を吸う虫たちも活動し、頻繁に世代交代を繰り返します。放置していると被害が大きくなるので、早めに薬剤を1週間おきに数回散布しましょう。新芽や葉の裏に潜み樹液を吸うアブラムシ、小枝に張り付いて樹液を吸うカイガラムシのほか、同じく葉の裏に潜み樹液を吸うハダニは専用の殺虫剤が必要になります。昨年被害を受けたときは、今年もそうなる可能性が高いので、園芸書、インターネットを活用するか、緑の相談コーナーをお気軽にご利用下さい。

(かわはら)

厄介な虫の世界

オンシツコナジラミ、アブラムシ、ハダニなど不快害虫に悩まされ相談コーナーにお電話が来ます。無農薬栽培を心がけている方は、防除を工夫され収穫量を考え、早期発見と対策をしています。オンシツコナジラミは厄介でアメリカ大陸原産のカメムシ目の昆虫で卵から成虫になる期間は約23日。人体には無害ですが、ウィルスを媒介して植物を弱らせます。駆除方法は粘着シートで、黄色が好きなので寄ってきます。デンポン由来の農薬も効果があります。葉ダニはクモの仲間で20~30度と気温が高く乾燥した環境で増殖しますが、水に弱く葉水や薬剤で簡単に防除出来ます。

(たかはし)



バラ園

バラ園の門から駐車場にかけてハマナシやハマナシの交配種のハイブリッドルゴサローズの開花がはじまり、レストハウス周りのスコットローズも中旬頃が見ごろ。中下旬にはオールドローズの小径が見ごろを迎えます。メインガーデンの満開は下旬頃ですが、中旬以降から全体的に見応えが増します。22日からは「いわみざわローズフェスタ 2019」が開催されます。オススメは「朝のローズツアー」。早朝に特別開園し、バラ園スタッフが園内をガイドいたします。朝露がおりた早朝のバラ園は本当にいい香りで、バラもいきいきとしています。ご参加は要予約です。事前に申し込みされた方がいない場合は催行いたしませんので、ご注意ください。



今月の開花情報

【知恵袋】スミレ・パンジー・ビオラの見分け方知っている？

北海道では、スミレ・パンジー・ビオラの花が春先から秋まで咲き続け、花壇を賑わせていますが、スミレ・パンジー・ビオラの見分け方は分かりますか。スミレは、昔から日本に自生し、万葉の時代から親しまれていますが、種類が豊富で150種以上とも言われています。依ってスミレの種類を見分ける方は至難の業です。

和名の「スミレ」の名の由来は所説いろいろありますが、スミレの花の形状が大工仕事で使われる墨入れで使う「墨つぼ」に似ているところから名づけられたともいわれている山野草です。パンジー・ビオラはスミレの品質改良したものです。

パンジーは花が小輪から大輪まであり、小輪は4~5cm、中輪は5~7cm、大輪は7~10cm以上のものも存在しています。花弁は5枚からなり、その中心にはブロッチと呼ばれる斑紋が付いています。

ビオラは、花輪の大きさで小輪は2~3cm、中輪は3~4cmです。色は単色がスタンダード、他にも2色からなるバイカラーや、まだらなど様々な色模様があります。



ひとつき ひとバラ



文：田中 伸枝
(いわみざわ公園バラ園)



第六十一回

ダマスクローズ

マダム アルディ

Mme. Hardy

作出国：フランス

作出者：Hardy

作出年：1831年

ハーディネスゾーン：Z4

一季咲き性

交配：Unknown

中輪・ロゼット咲きで、クシュッとしたお顔が大変可愛い品種です。花色は爽快なほどに真っ白で、「オールドローズのなかで最も美しい白バラ」といわれています。花の中心のグリーンのボタンアイがチャームポイントで、花色をいっそう爽やかに引き立てています。香りも爽やかで良い香りがします。うつむき加減で咲くので、ポールなどに仕立てても良いし、当園では自然樹形で栽培していますが、なかなか見応えのある立ち姿になります。耐陰性・耐病性・耐寒性がありますが、庭に定着するまでは2～3年掛かりそうです。植えて1年で満足の結果が出なくても、もうしばらく様子を見てみましょう。オールドローズなので、深く切ると樹形を乱す可能性があります。軽い剪定と枝抜き程度のローメンテナンスが良いでしょう。作出者 Hardy 氏が奥様に捧げたバラということで、Mme.Hardy (アルディ夫人) と名付けられました。きっとこのバラのようにチャミングで凜とした方だったのでしょね～。

Hardy 氏はフランスパリのリュクサンブール宮殿の庭師として40年以上働きました。リュクサンブール宮殿は同名の公園として今も健在です。パリのど真ん中に位置し東京ドーム5個分の広さを誇る大規模

な公園で、地元の人たちに愛されており、人気の観光スポットでもあります。アメリカの自由の女神の原型の像があることでも有名です。同氏は植物学者としても手腕を発揮し、代表作に“Traité de la taille des arbres fruitiers (果樹の大きさについて)”の著書があり、今もなお電子書籍などで販売されています。また‘Hardii’という最初の R.persica のハイブリッド種を紹介したことで知られています。R.persica についてはまた機会があれば書きたいと思います。

交配は不明ですが、近年植物の世界もDNA分析が進んでいて、濃いピンク色の Bullata と薄いピンク色の Petit de Hollande に近いということが分かってきました。両品種ともケンティフォリア系統で、花容の美しさはその影響か～、と納得です。ちなみに葉の色や質感はダマスク、香りはガリカ、色はアルバ、花容はケンティフォリアに似ているといわれています。

マダムアルディが咲くオールドローズの小径は、6月中旬から下旬くらいまでが見ごろです。どれも香りが良く全身が香りに包まれ、自然樹形でいきいきと咲く傍を歩いていると、まるでひみつの花園に来た気分になります。是非メインガーデンが満開になる前にも一度足をお運びください。

今月の市民園芸講座のご案内

これは面白い!



- 6月8日(土) 13:00~15:00 小品盆栽・苔玉の楽しみ方
料金：無料 定員：40名 講師：桑内彦さん 岩見沢樹石会会長
- 6月9日(日) 13:00~15:00 寄せ植え! カラーコーディネート
材料代：2,000円~(容器代別途) 定員：20名
講師：土谷美紀さん 恵庭サンガーデン
- 6月15日(土) 10:00~12:00
ばらゼミ④農業に頼らないバラづくり! バラ本来の美しさを引き出すコツ!
料金：無料 定員：40名 講師：工藤敏博さん ローズグローワー
- 6月16日(日) 13:00~15:00 オリジナリティーのある寄せ植え講座
材料代：2,000円~(容器代別途) 定員：10名
講師：高橋かつえさん フラワーマスター
- 6月22日(土)・29日(土)・
7月7日(日)・15日(月祝) 10:00~12:00
バラ管理スタッフのローズツアー
料金：無料 定員：40名 講師：バラ園スタッフ
- 6月23日(日) 10:00~12:00 バラの美しい写真の写し方
料金：無料 定員：20名 講師：河野芳廣さん カメラの理光
- 6月30日(日) 10:00~12:00 バラ園でスケッチしよう
料金：無料 定員：20名 講師：藤川志朗さん イラストレーター
- 6月30日(日) 13:00~15:00 バラ園のバラを使ったアレンジメント
材料代：1,000円 定員：20名
講師：大和田由紀子さん カンガルーファクトリー
- 7月15日(月・祝) 13:00~15:00 盆栽作りの楽しさ
料金：無料 定員：40名 講師：桑内彦さん 岩見沢樹石会会長
- 7月21日(日) 13:00~15:00 折り紙でバラをつくろう 初級
料金：無料 定員：15名 講師：バラ園スタッフ